

Nir Felder Trio

[Profile]

ニア・フェルダー Nir Helder (g)



1982 年生まれ。

ニューヨーク郊外で幼少よりジャズやロックなど様々な音楽に接して育ち、地元のロックバンドで演奏するようになる。その後、全額支給奨学金を得てバークリー音楽大学に進む。2006 年には拠点をニューヨークへ移すすぐに頭角を現し、Esperanza Spalding や Terri Lyne Carrington、Jack DeJohnette、Greg Osby、Joey DeFrancesco、Eric Harland、Jose James、Meshell Ndegeocello、Cindy Blackman や New York City Opera、Dianne Reeves、Bobby McFerrin、Stanley Clarke、Lizz Wright 等そうそうたる顔ぶれ達との共演を果たし、Radio City Music Hall や Village Vanguard 等の著名な Jazz クラブはもちろん、NBC や Fox といった TV メディアでも活躍している。彼のユニークなサウンドと個性あふれる創造的なスタイルへの賞賛に後押しされて、2010 年には自身のグループで国内やヨーロッパツアーを行い成功をおさめる。

また、1 年間にわたって出演していた NY の老舗 Jazz Bar 「55 Bar」では、Kevin Hays、Aaron Parks、Aaron Goldberg、Uri Caine、Greg Osby、Chris Potter、David Binney、Ben Street、Matt Penman、Scott Colley、John Patitucci、James Genus、Tim Lefebvre、Nate Smith、Mark Guiliana、Shawn Pelton、Ali Jackson、Keith Carlock、Anton Fig、Snarky Puppy といった世界の Jazz シーンを牽引している音楽家達と共演する。

その後、Aaron Parks、Matt Penman、Nate Smith という強靱なメンバーでのレコーディングをスタート。

2013 年にはモントリオール Jazz フェスティバルにて、Sax 奏者 Dexter Gordon のトリビュート演奏を Terri Lyne Carrington、Greg Osby、and Orlando Le Fleming らと成功させる。2014 年、前述のレコーディングメンバーにて、自身初となるリーダーアルバム「Golden Age」をリリース。

Jazz、ロック、Hip-Hop、ポップスなど多様なスタイルをオーバークロスするこの作品は、各誌/メディアからも好評価を得ている。

ニューヨークタイムズ誌に「神童」と評され、モントリオールガゼット誌からは「信じられない才能の持ち主」と呼ばれる、

次世代ジャズギタリストである。

オーランド・ル・フレミング Orlando le Fleming (b)



イギリス、バーミンガム生まれ。

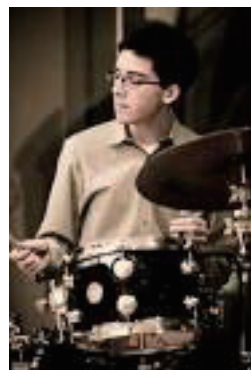
作曲家の父とチェリストの母という音楽的にめぐまれた環境で育つが、最初に彼が目指したのはプロのクリケットの選手であった。5 年間マイナーリーグでプレイしたが、ロンドンロイヤル・アカデミー音楽院への入学を機にベーシストとしての道を決断する。ロンドンを拠点として活動を始め、間もなくイギリスで最も傑出したベーシストと評判をよび、その地位を確立する。Jason Rebello、Julian Joseph、Iain Bellamy、Tommy Smith、Jean Toussaint 等、ヨーロッパを代表するミュージシャンとツアーやレコーディングを重ねると同時に、アメリカから訪れたビル・チャーラップ、アート・ファーマー、ジョージ・コールマン、ディープ・リーブマン、ジョーイ・カルデラッツォ等のツアーに参加する、特筆すべきはブランフォード・マルサリスからもツアーのオファーをうけ、そのツアー参加した事であろう。

2003 年にニューヨークへ移住、ビリー・コプハムのプロジェク "The Art of Five" のレコーディングとツアーに参加、またジミー・コプのアルバム "Marsal music hinors" でフィーチャーされ話題をよぶ。

近年はシーマス・ブレイク、アリ・ホーニグ、ウィル・ヴィンソン、ジョーイ・カルデラッツォ、ジェフ・"ティン" ワッツ等のレコーディング、ツアーに参加し、ダヴィッド・サンチェス・カルテットのベーシストとし

て多忙をきわめている。2010 年に自己の最初のリーダー作 "Brooklyn with love" を発表、その類い稀な作曲家としての才能も高く評価され、アントニオ・サンチェス (Ds) をフィーチャーしたその作品は大きな話題をよんでいる。

ジミー・マクブライド Jimmy Macbride (ds)



1991 年生まれ。

作曲家の父とビジュアルアーティストの母の芸術一家に育ち 3 歳でドラムを演奏し始める。

やがてジャズに興味を持ち、奨学金を得てジュリアード音楽院に進みカール・アレン、ビリー・ドラモンド、ケニー・ワシントンに師事する。卒業後は、ニューヨークを中心にプロ活動を始める。

ハービー・ハンコック、テレンス・ブランチャード、ウィントン・マルサリス、ボブ・ドロー、テイラー・エイグスティ、ハリッシュ・ラガバン等多数のミュージシャンと共演を重ねている。2013 年には、グラミー賞を受賞したトランペッター / テレンス・ブランチャードのグループのメンバーとしてラトビアの Saulkrasti Jazz Festival やブラジルへのツアー、Vail Jazz Festival 等に出演している。

これまでに、2009 年にシカゴで開催されたラヴィニア音楽祭での若手アーティストのための賞や SEIU モー・フォナー記念奨学金とハートフォードジャズ協会奨学金の両方を受賞した他に、2010 年には NY で行われた YoungArtsWeek で Gold & Silver Awards ファイナリストとなり、オリジナル曲の作曲では ASCAP 財団のヤング作曲賞、ASCAP プラス賞を受賞する。

2011 年及び 2012 年には NFAA と Stamford Symphony Instrumental から奨学を受賞する。他に、打楽器芸術協会はラリー・ロンドン記念奨学など PASIC 奨学金を授与される。

ニューヨークのジャズ・シーンで注目されているドラマーの一人。